

令和7年度 道徳教育振興だより

滋賀の子どもたちにこころの元気を



道徳科を要とした道徳教育の充実

令和8年3月 滋賀県教育委員会

刊行に寄せて

滋賀県教育委員会事務局 幼小中教育課長 畑 稔彦

現在、国においては学習指導要領の改訂に向けた議論が進められており、令和7年9月25日には、教育課程企画特別部会における論点整理が示されました。A I時代に「人間として生きること」や「価値判断と責任」がとりわけ重要となる中で、自己を見つめ、生き方についての考えを深める道徳教育は、一層重要になってまいります。

道徳科の学習は、「人生いかに生きるべきか」という生き方の問いを考えると言い換えることができ、児童生徒のよりよく生きようとする願いに応えるために、児童生徒と教師が共に考える時間といえます。児童生徒が、自立した人間として他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を養うには、「自分はどう考えたけれど友だちはどうかな」とワクワクしながら友だちの考えを聞き「こんな考え方もあるのか」と自分の考えを広げていく、そのような学びの時間となることが大切です。

「令和7年度 よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育の推進事業」の各推進校においては、全教育活動を通じて行う道徳教育の充実とともに、各校の実態に応じた道徳科の授業づくりを進めていただきました。本冊子には、その成果を掲載しています。

各学校におかれましては、ここに挙げた事例を参考にさせていただきながら、子どもたちの豊かな心を育むため、組織的な道徳教育の推進に努めていただければと存じます。また、本冊子の事例が、学校はもとより、家庭、地域社会における道徳教育推進のために御活用いただければ幸いです。

目 次

| | | | |
|--|--------------|----------|-------|
| □刊行に寄せて | 幼小中教育課 | 課長 畑 稔彦 | |
| □次の教育課程を先取りしましょう～道徳教育の充実をベースとして～ | 滋賀県道徳教育推進協議会 | 会長 押谷 由夫 | 1 |
| □中央教育審議会専門部会の「論点整理」から見えてくるもの～すべての教育活動で道徳教育の充実を～ | 押谷 由夫 | | 2～3 |
| ●各発達段階における道徳教育の方向性や目標 | | | 4 |
| ●各校園の道徳教育の取組例 | | | |
| ・日野町立日野幼稚園 | | | 5 |
| 「多様性を互いに受け入れ、日々の遊びの中で道徳性の芽生えを育む」 | | | |
| ・高島市立今津中学校区 | | | 6～9 |
| 「中学校区全体で取り組む道徳科の授業づくりとよりよい授業へのアップデート」 | | | |
| ・米原市立息長小学校 | | | 10 |
| 「児童の道徳性を養うために私たちができること」 | | | |
| ・米原市立双葉中学校 | | | 11 |
| 「多様な集団の中での経験を通して、多面的・多角的な見方や考え方を身に付けることを目指して」 | | | |
| ・滋賀県立水口高等学校 | | | 12～13 |
| 「自らを大切に、人も大切に作る心の醸成を目指して」 | | | |
| ●チーム高島で取り組む「つながり響き合う道徳教育」(高島市教育委員会) | | | 14 |
| ●自分でつかむ自分の未来～道徳教育の視点を明確にした自己肯定感・自己有用感を高め合う教育の推進～ | 米原市教育委員会 | | 14 |
| ●家庭と学校と地域が連携！思いやりを育てる道徳教育(滋賀県PTA連絡協議会) | | | 15 |
| ●絵本の世界をみんなで楽しもう～1歳児から90代の高齢者まで～(合同会社LOCO) | | | 15 |
| ●子どもの第三の居場所(inふじの里)～体験から広がるつながり つながりが育てる子どもの力～ | 社会福祉法人光養会 | | 16 |
| □資料1 道徳教育における「キャリア・パスポート」の活用 | | | 16 |
| ●自ら課題をもち、考え続ける「特別の教科 道徳」の在り方 | | | |
| ～自分事としてとらえるための自己を見つめ直す時間～(滋賀県小・中学校教育研究会道徳部会) | | | 17～18 |
| ●学校・家庭・地域社会で豊かな心を育む(滋賀県道徳教育推進協議会) | | | 19 |
| □資料2 道徳科学習指導案の様式(参考例) | | | 20 |
| □資料3 日々の授業構想お役立ちシート(参考例) | | | 21 |

表紙について

題名「カラフルでんちゃんとおそんでいるよ」(第72回滋賀県教育美術展 特選)

わたしのかっているオカメインコとでんちゃんが、楽しくあそんでいるところをそうぞうしてかきました。くふうしたところは、いろいろな色のクレヨンをつかったことです。

草津市立草津第二小学校2年 児玉 莉乃

次の教育課程を先取りしましょう ～道徳教育の充実をベースとして～

押谷 由夫

いま、次期学習指導要領の改訂に向けて
さまざまな提案がなされています
学校現場は大変です
どう対応すればよいのでしょうか

提案には、大きく学習内容に関するものと
学習方法に関するものがあります
科学技術の発達や社会の変化、
そして国としての政策も大きく関わります

それらへの対応はしっかりとしなければなりません
しかし、そのことばかりを考えると
負担感が増し、ストレスも増してきます
それでは効果的な指導はできません

これらの内容や方法は、子どもたちが主体的に学び
自分のものとして身に付けてくれることが大切なのです
子どもたちに寄り添い、一緒に取り組むことで
教師自身も成長する、それが教育の真の姿です

子どもたちは、誰もがよりよく生きる力をもっています
それらを覚醒し、自ら伸ばしていけるように
支え、励まし、新たな刺激を与えていく
それが教師の役割です

よりよく生きようとする力の根幹にあるのが道徳的価値です
ここをしっかりと育んでいくことで
おのずと新しい学習内容に興味をもち
みんなと主体的に学ぶ方法を考え、学びを深めてくれます

それは、道徳教育を充実させることにほかなりません
自らのよりよい生き方と関わらせて
道徳的価値意識を育むことで
自ら自分の未来や新しい社会を切り拓いていってくれるのです

中央教育審議会専門部会の 「論点整理」から見えてくるもの ～すべての教育活動で道德教育の充実を～

押谷 由夫

はじめに

現在、文部科学省では、次期学習指導要領の改訂に向けて、中央教育審議会の教育課程企画特別部会から、改訂の基本方針となる「論点整理」が報告され、それを基に教科等ごとに設置されたワーキンググループで、改訂案が急ピッチで審議されています。新学習指導要領の告示は、幼稚園、小・中学校が2026年度、高等学校が2027年度とされています。学校現場では、この段階において、審議内容を主体的に考え、議論し、どう取り組むかを具体的に検討していくことが必要です。そのポイントを押さえることから、道德教育の充実がいかに大切かを確認し、具体的な取組の方向性を考えてみることにします。

1 これからの学校教育で育てる子ども像

「論点整理」では、これからの学校教育において育てるべき子ども像として、「生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生を舵取りすることができる民主的で持続可能な社会の創り手」と明記しています。そのような子どもたちを育てるために、「特別の教科 道德」はもとより、各教科や総合的な学習（探究）の時間や特別活動など、全ての教育課程を通して取り組んでいこうとしています。

目指す子ども像は、端的に言えば、よりよい自己とよりよい社会を目指して歩み続ける子どもたち、つまり、よりよい自己とよりよい社会を目指した自分らしい生き方を追い続ける子どもたちを育てるということです。よりよいものを目指すとは、より価値のあるものを求めることです。生き方に係るより価値のあるものとは、道德的価値です。それは一人一人の人格の基盤となっていきます。

2 目指す子ども像を追究する教育課程の要となるのが道德教育

「論点整理」では、目指す子ども像を追い求める教育課程として、総合、各教科等、特別活動、道德を挙げ、それぞれの役割と、それらを統合していくイメージが描かれています。道德は、「主体的な判断の重要性、知・徳・体の調和のとれた発達に向けた道德的価値の対立を乗り越える必要性や道德的実践の強調」と示されています。

目指す子ども像は、まさに道德的実践のできる子どもたちです。そのことを追い求める教育課程においては、「特別の教科 道德」における道德的価値意識の育成を要に、各教科の特質に応じた学習や総合での探究的な学び、特別活動での協働での体験活動などと関わらせて学べるようにすることが求められているのです。

各教科や総合的な学習（探究）の時間や特別活動においては、それぞれの教育活動の特質に応じた学びを通して、よりよい自己とよりよい社会を目指す子どもたちを育てる必要があります。その中で、道德的価値意識が育まれます。しかし、それらは、各教科等の学習と関わらせて育まれるわけですから、基本的な道德的価値全般について計画的に学べるわけではありません。「特別の教科 道德」においては、それらを踏まえて、基本的な道德的価値の全般にわたって計画的・発展的に学べるようにするのです。

そのことによって、道徳的価値意識を、様々な知的学びや情的学び、志向的学びや実践的学び、表現的学び、方法的学びなどととも深め、よりよい自己とよりよい社会を具体的に追い求めていくことができるといえます。



「特別活動ワーキンググループ」第1回会議配布資料より

これからの学校教育においては、そのためのカリキュラム・マネジメントが必要になります。これからは、様々なプロジェクト型の道徳学習プログラムを開発していくことが求められます。

3 「学びに向かう力、人間性等」の重要性

さらに、「論点整理」では、特に「学びに向かう力、人間性等」の重視を提案しています。主要な要素として「初発の思考や行動を起こす力・好奇心、学びの主體的な調整、他者との対話や協働、学びを方向付ける人間性」の4つを挙げ、このことを踏まえて、各教科等の目標を改善していく、としています。「学びに向かう力、人間性等」とは、目指す子ども像が求めるよりよい自己とよりよい社会の形成へと向かう力と言っていいと思います。

学びを方向付ける人間性の根幹には、個々人に培われる道徳的価値意識があります。それが、様々な状況において、具体的な行動や自己調整、対話や協働などを誘発し、一人一人の自己成長（人格形成）が図られるととらえることができます。そのための支援をするのが道徳教育です。

4 「考え、議論する道徳」の実装に必要なもの

道徳ワーキンググループでは、道徳の授業を「『考え、議論する道徳』への転換のフェーズから、『考え、議論する道徳』の実装のフェーズへ」と移行することを求めています。「考え、議論する道徳」を実装する、とはどういうことでしょうか。その大きな理由として、「答えが一つではない課題に子どもたちが道徳的に向き合う」ためとされています。

そのためには、もっと大切なことがあります。それは道徳的な課題や事象に気付き興味をもつことです。感性を豊かにし道徳的な課題や事象に興味をもってとらえられれば、考えも議論も深まります。もう一つ大切なのは、実践（行動）へとつないでいくことです。議論することで内面が高まれば、おのずと自己の変容が起こります。それは、実践（行動）へとつながっていきます。そのつなぎを考えることで、生きて働く道徳性が養われます。

5 開かれた教育課程で学習コミュニティを

「論点整理」では、前回の改訂と同様に「社会に開かれた教育課程」を強調しています。これからの学校教育においては、学習コミュニティという視点から、学校、家庭、地域等が協力して子どもたちに関わることを求めています。それは、目標を目指して道徳的価値意識を共有することがベースになります。道徳教育がますます重要になります。

各発達段階における道德教育の方向性や目標

高等学校



校種間の連携を意識しながら各発達段階における取組を充実させることが重要です。

*赤字は発達段階による違いです。



道德教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、生徒が自己探求と自己実現に努め国家・社会の一員としての自覚に基づき行為しうる発達の段階にあることを考慮し、人間としての在り方生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道德性を養うことを目標とすること。

(高等学校学習指導要領 第1章 総則 第1款2の(2))

道德教育の目標

中学校



第1章総則の第1の2の(2)に示す道德教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道德性を養うため、道德的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道德的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

(中学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道德 第1)

道德教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道德性を養うことを目標とすること。

(中学校学習指導要領 第1章 総則 第1の2の(2))

特別の教科 道德の目標

小学校



第1章総則の第1の2の(2)に示す道德教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道德性を養うため、道德的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道德的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

(小学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道德 第1)

道德教育の目標

道德教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道德性を養うことを目標とすること。

(小学校学習指導要領 第1章 総則 第1の2の(2))

幼児教育



「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」より
(4) 道德性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

(幼稚園教育要領 第1章 総則 第2の3の(4))

各校園の道徳教育の取組例

多様性を互いに受け入れ、 日々の遊びの中で道徳性の芽生えを育む

日野町立日野幼稚園 <<https://www.town.shiga-hino.lg.jp/0000007905.html>>



継続した
遊びの様子から

一緒に遊ぶって、楽しいな。

子どもたちは、主体的に繰り返し遊ぶ中で、自分なりに試行錯誤したり、友だちの遊ぶ姿に刺激を受けて同じようにやってみようとしたり、複数の友だちと一緒に思いを共有して遊びを広げようとしたりしている。気の合う友だちだけでなく、普段あまり関わりがなかった友だちや外国籍の友だちとも「一緒にしよう。」と誘ったり、「これは〇〇やで。」と教えたりするなど、同じクラスの仲間として心を通わせる場面が見られるようになってきている。

〈遊びの様子〉(外国籍の双子のA児・B児との関わりから)

クラスの友だちが砂場で遊んでいる様子に興味をもって見るようになってきたA児とB児。友だちと同じように自分たちも“試してみたい”と大きな穴を掘り始める。

しばらくすると「水入れてよい？」とC児に尋ねられ、その思いに応え、頷くA児。C児とやり取りをしているA児とB児の嬉しそうな表情を見て、D児も水を入れに行く。「もっと水、入れるよ。」と水を流し入れたり、A児とB児の表情を見ながら一緒に穴を掘ったりする友だちも出てくる。

A児とB児が中心になって掘っていた穴が深く大きくなり、隣りで掘っていた自分の穴と偶然つながり「つながった。めっちゃ、大きくなった。すごいな。」と喜ぶE児。A児とB児の笑顔とともに、みんなで喜び合った。



砂遊び “もっと深く掘ろう”

振り返りの
場面から

〇〇くんがしてくれたから、楽しかった。

遊びの振り返りでは、自分の言葉で思っていることや感じたことをみんなの前で発表している。振り返りを積み重ねていく中で、友だちの発表を受け止めながら、共感したり、一緒に考えたりする場面も増えてきている。

〈振り返りの様子〉

E児「宝探しで、穴を掘ってたけど、なかなか大きい穴にならへんかった。AくんとBくんが大きい穴 掘ってくれたから、めっちゃ楽しかった。」

F児「ぼくも楽しかった。な！」(顔を見合わせる。)

一緒に遊んで楽しかった思いを友だちから伝えられたことで、言葉は正確に理解できなくてもA児とB児に満面の笑顔が見られた。A児とB児に、友だちの思いが十分に伝わっていることが感じられた。

成果と課題

○様々なルーツをもった子どもが増えてきている。そのような中で、園では言語や文化の壁を越えた協同体験や違いを認め合いながら共通のめあてに向かう経験を通して、喜びや面白さなどの思いの共有ができ、もっと一緒に遊びたいという次の意欲へとつながる体験になっている。

○友だちや身近な大人の共感や認めは、子どもの自信になっているとともに、子どもにとって自分がないとはならない存在であることが実感でき、自己肯定感を高める体験となっている。また、時には自分の思いとは異なる考えや思いに触れることもあるが、子どもたちにとっては、“友だちのことを知る、考える”とても貴重な機会となり、豊かな人格形成の基礎になっていると考える。

●ふわふわ言葉・ちくちく言葉について考え合ったり、ポジティブワードに変換して投げかけたりするなど、教師が子どもたちのモデル(人的環境)であることを意識しておかなければいけない。

●教師は目の前の子どもの姿をよく観察し、一人ひとりの内面理解に努めるとともに、日々の遊びの中で多様性を受容し友達を肯定的に受け止められる子ども同士の関係を育ていけるように、さらに遊びの充実を図っていきたい。

中学校区全体で取り組む道徳科の授業づくりと よりよい授業へのアップデート

高島市立今津中学校

(https://www.city.takashima.lg.jp/kosodate_kyoiku/kosodate/2/5/4/index.html)

高島市立今津東小学校

(https://www.city.takashima.lg.jp/kosodate_kyoiku/kosodate/2/4/3/index.html)

高島市立今津北小学校

(https://www.city.takashima.lg.jp/kosodate_kyoiku/kosodate/2/4/4/index.html)



今津中



今津東小



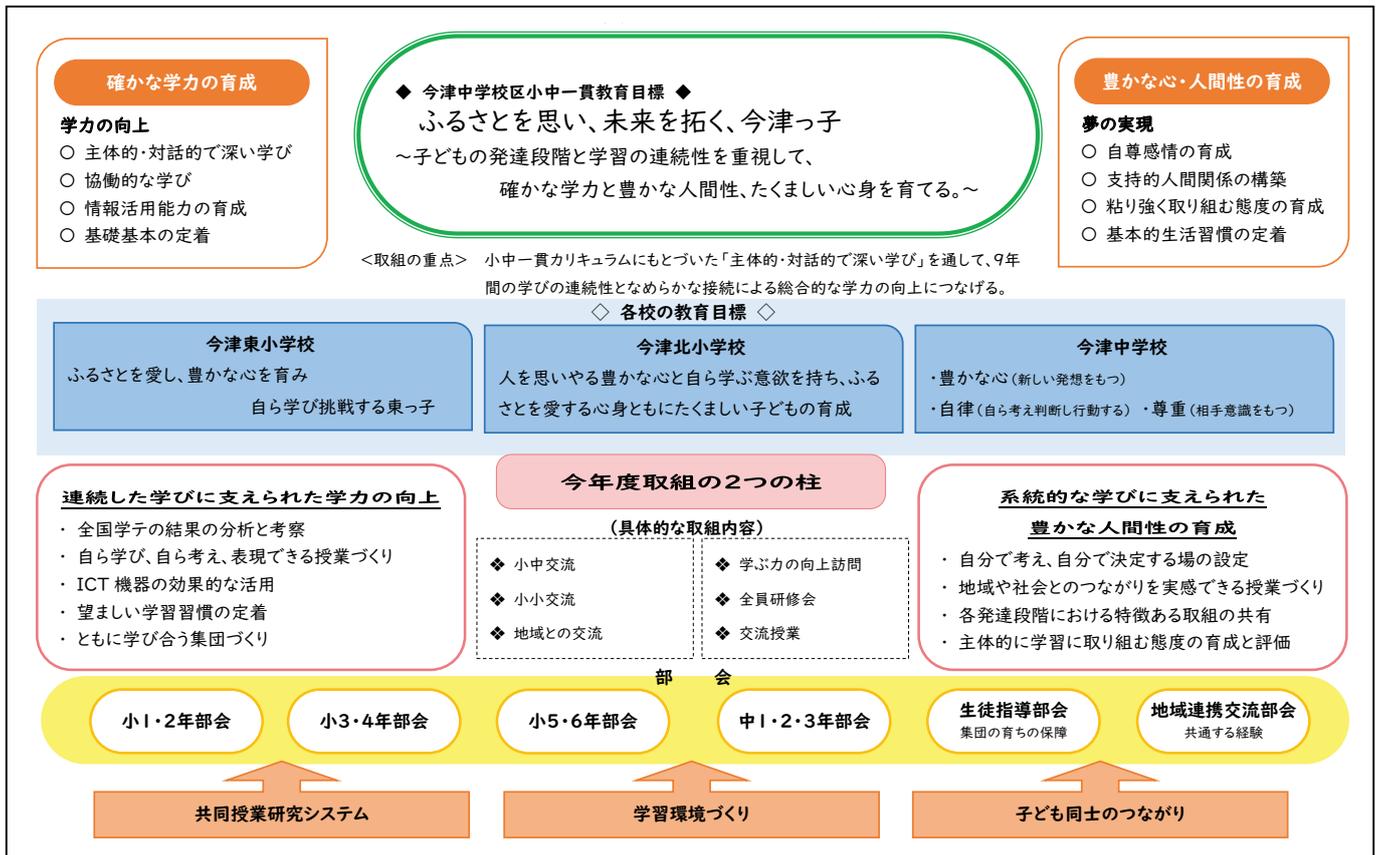
今津北小

自分事として考え続け、本音で語りたくなる道徳 ～思いを広げ深めながら、自分事ととらえる授業の創造～

「よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育の推進事業」の1年目を迎えるにあたって、4月に今津中学校区の教員に意識調査を行った。そこには、道徳科の授業づくりに対しての悩みや、「児童生徒は本当に自分のこととして考え、本音で語っているのだろうか。」という迷いがあった。また、児童生徒の実態として、自分の考えを広げたり深めたりすることに課題が見られた。そこで、道徳科の授業づくりを小中一貫教育の共同研究とし、道徳教育の要である道徳科の授業を充実させるための実践的研究を推進した。

取組1 中学校区全体での研究体制の充実

今津中学校区3小中学校で、校内研究のテーマや小中一貫教育研修会の内容、県教育委員会学ぶ力向上学校訪問の教科を道徳の本研究として統一した。研究の機会の量的確保をするとともに、それぞれを道徳に統一することで、教員にとっても集中して研究に臨める体制を整えた。全員研修会や各部会では、研究の方向性の共通理解、指導案検討会、模擬授業などを行い、教員も自分事として共同研究に取り組む姿が見られた。県教育委員会指導主事との指導案検討や指導助言、外部講師を招聘しての授業参観・講評を合わせて10回以上行い、研究の質的確保にも努めた。



今津中学校区小中一貫教育グランドデザイン

小中学校の教員が共同して行った指導案検討や外部講師を招聘しての授業参観・研究協議等、研究を推進する中で得られた「学び」を、今津つながり通信にまとめた。通信として発信することで、これらの「学び」を今津中学校区の全教員が共有できている点が、大きな強みである。

授業づくりに関する研究内容を、①本音で語りたくなる発問とその生かし方（問い返し、切り返し、話し合い、個の支援など）②思いを広げ深められる構造的な板書 ③自分事として考え続ける手立てと授業の組み立て方「導入、めあて、中心発問、振り返り」の3つに整理し、特に今年度は③について重点的に取り組んだ。

(1) 「ねらい」に沿ったぶれない「めあて」の設定

6月18日の授業研究会に向け、研究主任と小学校第2学年学年担当教員を中心に、図1（青色）のように「ねらい」と「めあて」を設定したが、実際に授業を行うと「ねらい」に十分に迫ることはできなかった。公開授業後の研究協議の中で畿央大学の島教授より、図1下段にある具体例を示していただき、『ねらいに沿ったぶれないめあて』を設定する大切さを学んだ。

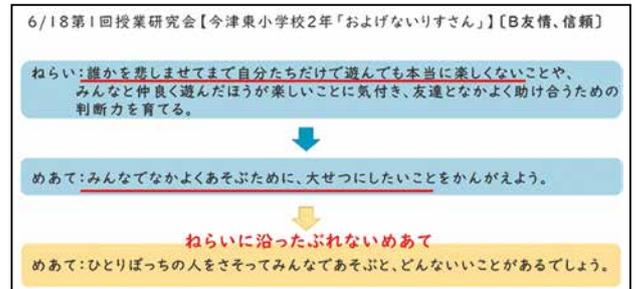
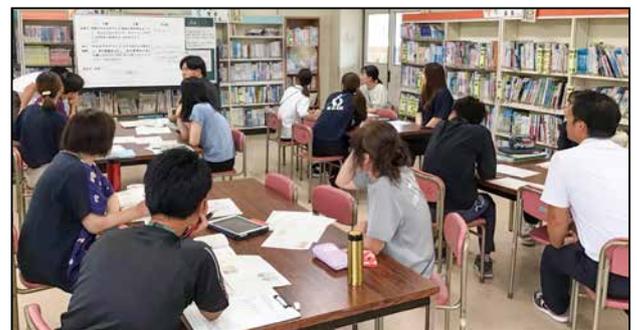


図1 ねらいに沿ったぶれないめあて

(2) 「ねらい」に迫るための全教員での議論

リレー道徳を行う小学校第5学年「やさしいユウちゃん」〔B友情、信頼〕の指導案検討会を校内研究に位置付けて行った。「ねらい」「めあて」「中心発問」について深く協議することができた。



9月10日 全教員での指導案検討会の様子

【3つの成果】

今津中学校区において、各教員が自分ごととして考え協議することで、2学期には以下の3点の成果があった。

○ 内容項目の違いに気付くことで「ねらい」に迫ることができる

図2のように、小学校第2学年「わりこみ」、第5学年「うばわれた自由」〔A善悪の判断、自律、自由と責任〕では、ともすれば、「みんなの規則を守ることが大切」など〔C規則の尊重〕に流れてしまうことがある。授業者が内容項目の違いを理解し、適切な中心発問を行うことで、「ねらい」に迫ることができた。

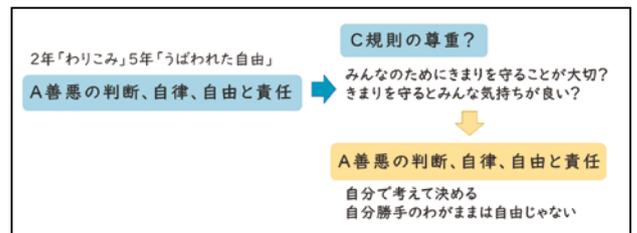


図2 内容項目の理解

○ 「ねらい」を明確にすると「切り返しの発問」の方向性が見えてくる

小学校第3学年「まどガラスと魚」〔A正直、誠実〕では、「ねらい」を「自分の心の中にある嘘やごまかしをしてしまう『弱い心』に負けず、自分に正直であることの大切さに気づき、正直に明るい心で元気よく生活する態度を育てる」と明確にした。中心発問に対する児童の反応を受け止め整理していく中で、授業者が「誰に（対して）正直になりたいの?」と切り返しの発問を行い、「自分に対する正直さ」という考えを引き出すことができた。

○ 振り返りの視点があることで自分事にできる

中学校第3学年「6万円のご縁」〔B思いやり、感謝〕では、振り返りの視点を『今までの自分、これからの自分』と示すことで、生徒は、図3のように自分事として振り返ることができた。

今まで、思いやりのある行動に対して感謝されることがあったし、自分も感謝してきた。今日の学習を通して、思いやりや感謝の心を大切にすることで、日頃の関係性がなくても絆、友情、信頼がうまれるとわかった。これからは、みんなに思いやりや感謝の心をもって接していきたいと思った。

図3 生徒の振り返り

取組 3

よりよい授業へのブラッシュアップを実現するための
リレー道徳・ローテーション道徳

よりよい授業へブラッシュアップするため、①教員も学びをつなぐリレー道徳 ②小中学校で内容項目を統一した取組とし、実践を重ねた。

(1) リレー道徳 学校を飛び越えての教材のリレー

小学校はリレー道徳（板書、発問、成果や課題を他校や他学級とリレーの様に共有する）、中学校はローテーション道徳（教材と授業者がともに回る）に、6月、9月、10月の計3回取り組んだ。

第1回リレー道徳では学習支援アプリを活用して教員が交流した。具体的には、図4のように、まず1人目の授業者（今津東小学校）が板書画像にコメントを記入して、2人目の授業者（今津東小学校）に送る。2人目の授業者は1人目の記録を参考にしながら、授業を行い、その記録を3人目（今津北小学校）に送る。授業を行うごとに成果と課題が明確になり、授業がブラッシュアップされた。（図5）

1人目：ピンク 2人目：水色 3人目：緑

第2回以降は相互参観を行うなど、授業者の思いや学校事情に応じて共有しやすい方法を採用し、意見を交流した。

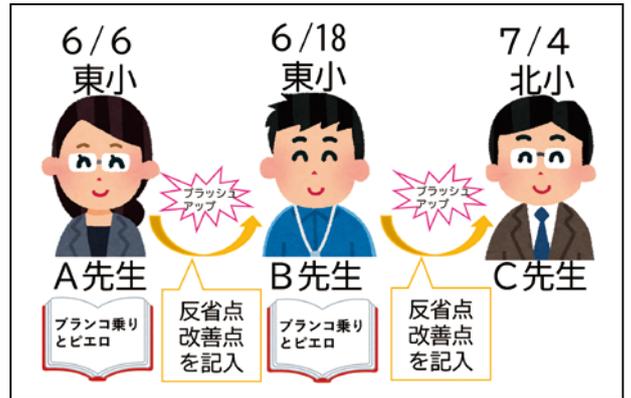


図4 リレー道徳の流れ



相互参観後、教員が板書を見ながら話す様子

中心発問では、児童から大きく4つの考えが出た。
①今後の関係について
②ピエロ自身について
③サムについて
④結果について

めあてが目立たず、児童が、本時に考えたいことを意識し続けることが難しかった。

児童から出てくる意見を事前に把握することで、整理しながら板書することができ、問い返しの内容についてもあらかじめ準備することができた。

1時間通してめあてを意識することができるように、めあてを画用紙に書いて目立たせたり、授業の後半に、もう一度めあてに立ち返ったりした。

児童が、道徳的価値について考えを深めることにつながった。

相手のことを受け入れるにはどんな考えが大切なのだろう。

めあて

相手のことを受け入れるにはどんな考えが大切なのだろう。

プランコ乗りとピエロ

言うこと聞かない

いつも腹を立てている

サム

半年前に入団

スター取り

周りにことも考えよう

あれだけ言ったのに

自分だけ目立っておかし

自分も目立たない

自分だけがスターになり

みんなが成功させた

自分の意見をわづら

るのほよがしいことに

気がついた

自分だけが成功させた

みんなが成功させた

自分の意見をわづら

るのほよがしいことに

気がついた

自分だけが成功させた

みんなが成功させた

自分の意見をわづら

るのほよがしいことに

気がついた

図5 学習支援アプリを活用し教員間で授業内容を共有（リレー道徳）

(2) 小中学校で内容項目を統一した取組 「親切、思いやり」「思いやり、感謝」月間

4月の意識調査より、「人に優しく接することができる一方、相手の気持ちを深く考えられていない」という児童生徒の実態が明らかになった。このことから、9月は、小中学校ともに同じ内容項目「親切、思いやり」「思いやり、感謝」で授業づくりや相互参観を行った。同じ内容項目に統一することで、図6に示すように、9年間の発達段階における内容項目の違いを理解することができる。担当学年だけでなく、発達段階における違いを理解することでわかりきったことを聞く授業からの脱却ができ、発問がより「ねらい」に迫るものになった。職員室では、他学年の担当教員とともに授業を練り合うことにつながった。

| |
|--|
| <p>〔第1学年及び第2学年〕 身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。</p> <p>〔第3学年及び第4学年〕 相手のことを思いやり、進んで親切にすること。</p> <p>〔第5学年及び第6学年〕 誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にすること。</p> <p>(中学校) 〔思いやり、感謝〕 思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。</p> |
|--|

図6 小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編より

【2つの成果】

リレー道徳・ローテーション道徳を行ったことで、以下2点の成果があった。

○「めあて」の精査

図7の左側は1人目の授業の「めあて」である。この「めあて」では、児童の意見が分散してしまった。リレー道徳でブラッシュアップされた右側の「めあて」にすることで、児童から「ねらい」に沿った意見が出た。

2年「わりこみ」

めあて：よいことをするためにどんな考えが大切かな？

めあて：してよいこととよくないことを決めるときどんな考えが大切かな？

6年「心づかいと思いやり」

めあて：思いを思いやりに変えるにはどんな心が大切だろうか？

めあて：思いを思いやりに変えるにはどんな心構えが大切だろうか？

図7 めあての変化

○児童生徒の実態からの改善

図8の左側（青色）は1人目の授業でわかった改善点である。以降のリレー道徳で、児童の実態に合わせて、発問を追加すると、より「ねらい」に迫ることができた。

5年「やさしいユウちゃん」

ユウコの2つの行動を優しさで捉えられなかったため、「優しさ」という言葉が入った中心発問では意見が出にくかった。

中心発問の前に、「ユウコが別の委員会に行ったことは、優しさなのだろうか。」という発問をしてから、中心発問をした。

図8 発問の変化

取組4 学校から地域・保護者への発信

学校の道徳の取組を保護者や地域へ発信することで、家庭や地域での道徳教育との連携が深まり、児童生徒は多面的・多角的な価値観や考え方を学ぶ機会が増える。

今後は、地域の知恵や資源を生かした道徳教育に取り組んでいきたいと考えている。

中学3年3組（今津中）『ライバル』（友情、信頼）

山本啓介と吉田康夫は仲の良い友人同士であり、水泳選手としてのよきライバルであったが、康夫が重い病気がかかって入院する。これまで康夫に勝てなかった啓介は、どこかほっとしつつも『友人の不幸を喜ぶ涙れな人間になったのか』という心の声に苛まれる。一方、康夫は絶望的な気分になり、見舞いに来た啓介を冷たくあしらってしまうが、友人の心遣いを無下にした自分を恥じ、「…これからの一年間は病気の戦いだけでなく、心との戦いです。…」と手紙を書くことを決めたのだ。

●●子どもの感想・振り返り●●

- 互いに弱さを見せられる関係が良いなと思った。友情一人で作るものではなく、互いに強さ合うもの。
- これまでの自分は、友達といえは趣味が同じだったり、気が合う人だと思ってたけど、真の友情を学んだことで、本当の友達とは互いが幸せになってほしいとか思える関係性なんだと感じた。
- これまでの自分は大会などで相手が棄権になると喜んでたけど、この話を聞いて、誰かがいないと自分は成長できないと気づきました。

今津つながり通信第8号

成果と課題

- 教員も自分事として研究に臨み、道徳科の授業づくりについて話せる風土ができた。
- 授業づくりにおいて、ねらい、めあてが焦点化され、それに迫る構造的な板書の研究が進んだ。
- 子どもたちの言葉で、教師のねらいに迫るめあてを立てることが未だ難しい。
- 道徳教育全体としての取り組みには至っていない。今後、全教育活動を通じて行う道徳教育としての工夫について取り組む必要がある。

児童の道徳性を養うために私たちができること

米原市立息長小学校 〈<https://okinaga-e-maibara.edumap.jp/>〉



豊かな心で自分事として考え議論する「特別の教科 道徳」の実践 ～日常生活で生かす力の育成～

よりよく生きるための基盤づくりとなるよう、道徳科授業の質の向上を目指した。そのために、児童がいかに自分事としてとらえられるか、本音で語り合える話し合いになっているか、学んだことが日常生活で生かしているか、などを研究のポイントに置きながら、日々の実践に取り組んだ。

取組 1 児童自身が、自分事として考えるための手立て

- 導入の工夫 : 身近な事象を取り上げ、児童が、おのずと価値について考えられるようにする。
例えば、事前アンケートを実施し、学習前の児童の『価値感』を問い、展開後段で学習後の「価値観」をもう一度問うことで、児童自身が考えの広がり気付くことができるようにした。
- 発問の工夫 : 中心発問は、どう問えば一番ねらいに迫れるかという点を意識して考える。問い返しを行うことで、考えの広がりや深まりが見られ、活発な話し合いにつながった。
- 板書の工夫 : 児童が黒板をパッと見て、何について話し合っているのかがわかるように、構造的な板書を意識して行う。児童の発言は、端的に短い言葉でまとめて書くことで、視覚的にもとらえやすくする。
- 家庭との連携 : 保護者からの手紙を活用することで、教材での学びから自分の生き方について考えるきっかけとなるようにした。



保護者からの手紙を読む児童

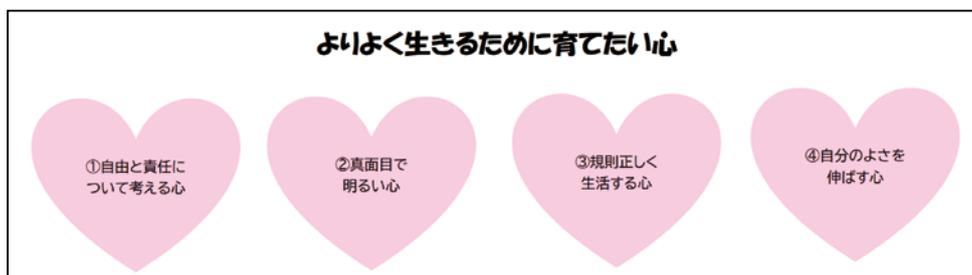
取組 2 日常生活の中に落とし込むための手立て

☆掲示板の活用

- 学級掲示の一部に道徳コーナーを設置し、日頃から道徳科での学びを意識できるようにする。
- 学年の発達段階に合わせ、内容項目をわかりやすい言葉で示し、「育てたい心」とし校内掲示にする。



板書写真の掲示 (6年)



「育てたい心」高学年用

成果と課題

- 児童が自分事として考えられる実践を行うことができ、一定の成果につながった。
- 振り返りシートには、自分自身を見つめ書く児童が増加した。
- 教員の道徳科指導に関する理解が進み、指導力の向上につながった。職員室で、次の道徳科の授業について語り合う場面が増え、授業を楽しむ教員が増加した。
- 行事の振り返りの際に「育てたい心」の中から自由に選択させたことで児童の成長を見取ることが難しかった。重点を絞ることで、児童の変容を丁寧に見取っていきたい。
- 学校全体の教育活動で道徳教育を行っているという意識をもって取り組んでいくことが求められる。

多様な集団の中での経験を通して、
多面的・多角的な見方や考え方を身に付けることを目指して
米原市立双葉中学校 <<https://souyou-j-maibara.edumap.jp>>



物事を多面的・多角的にとらえ よりよい生き方について考えようとする生徒の育成 ～教育活動全体での道德教育の充実に向けた取組を通して～

教育活動全体での道德教育を通して、多面的・多角的な見方や考え方を身に付けることで、努力を積み重ねるたくましさや困難に負けないしなやかな心を育み、自己肯定感や自己有用感を高めることを目指した。学級、学年、全校など多様な集団の中で道德教育を充実させる実践研究を推進してきた。

取組 1 学級で高める道德性

一人ひとりの生徒が自分自身の問題としてとらえ、考え議論する態度を養うことができるよう、教師の授業力向上を図る。次の3つのポイントを意識して授業を行った。

- ①道德の授業の基本形（導入、展開前段、展開後段、終末）
（特に展開前段は「教材と向き合う時間」、展開後段は「自己と向き合う時間」を意識する。）
- ②自分の考えを他者と共有し、一面的な見方から、いろいろな側面や立場からの見方へと発展させることができる場面の設定
- ③生徒の発言を生かし、次の発言につなげること（補助発問、問い返しの発問等）

取組 2 学年で高める道德性

学年での教育活動（総合的な学習の時間等）に、道德的価値を関連付けて取り組んだ。学年や学校行事の年間計画と道德科の授業の内容項目を連携させた表を作成することで、関連する道德的価値を意識することができた。また、総合的な学習の時間のワークシートや振り返り等が、関連する道德的価値を意識できるような形式にした。

| 月 | 生徒会活動 | 人権学習 | 総合的な学習の時間 | | | 道德 | | |
|----|---------------------|----------------|---------------------------|---------------------|--|---|--------------------------------------|---|
| | | | 1年 | 2年 | 3年 | 1年 | 2年 | 3年 |
| 4月 | 全校生徒集会 対面式 | | 探究学習 ガイダンス | 職業調べ | 修学旅行の 取組 | B17礼儀 B18災害備前 A11自主・自律 | B17礼儀 C13敬語 A11自主・自律 | B16思いやり感謝 A11自主・自律 C110憲法精神・公徳心 |
| 5月 | 全校生徒集会(NSD) 生徒総会 | 人権アンケート の実施 | ふるさと 学習 体育大会の 取組 | 職業調べ 体育大会の 取組 | 修学旅行(平 塚学園)の 取組 D122)よりよく生 きる喜び B18災害備前 A14希望と勇気 思い豊志 | C116)伝統文化の 尊重 D122)よりよく生 きる喜び B18災害備前 | B18災害備前 B16思いやり・ 感謝 B18災害備前 | B16思いやり・感謝 C116)確かな文化継承 B18災害備前 D121)感動、畏敬の念 |

行事の年間計画と道德科授業を連携させた表の一部

取組 3 全校（縦割集団）で高める道德性

全校での教育活動（行事や生徒会活動等）に、道德的価値を関連付けて取り組んだ。体育大会や合唱コンクールの取組では、縦割活動を通して「思いやり、感謝」「相互理解、寛容」等の道德的価値を意識させた。また、生徒主催の人権の取組を実施し、生徒会役員が感想を新聞にまとめ掲示した。学年を超えて、多様な考えに触れることができる機会となった。



体育大会での団活動（作戦会議中）

成果と課題

- 授業の基本形を意識し、授業の流れを整理することで、生徒の発言を生かす展開を考えることができた。
- ふるさと学習では郷土を愛する態度、学年集会では集団生活の充実など道德的価値と関連させることで、学年での取組の目標をより明確に意識できるようになった。
- 教員が育てたい道德的価値を意識したことで、生徒も縦割活動において、上級生は下級生に対して思いやりをもつことができ、下級生は上級生に対して感謝や礼儀を意識することができた。
- 学年での取組のワークシートや振り返り等が、関連する道德的価値を意識できるような内容に至っていないなど、道德科の授業との関連を十分に生徒に意識させられていないことがあった。生徒が関連する道德的価値を意識できる工夫について、さらに研鑽を深めたい。

自らを大切にし、人も大切にする心の醸成を目指して

滋賀県立水口高等学校 <<https://www.minakuchi-h.shiga-ec.ed.jp>>



わたしもあなたも世界にひとり！！ ～かけがえのない一人ひとりを大切に～

学校教育を通じて自分も人も大切にできる仲間づくりや、人権学習、総合的な探究の時間等で「人としての在り方生き方」を考える取組を一昨年度から継続実施している。家庭・地域と連携しながら生徒の道徳性や道徳的実践力の育成を図る。

取組 1 「勇気付け」教育に基づいた生徒・教員・保護者の学び

○トップアスリート講演

「未来のために今できること ～自分を信じる生き方～」と題して、サッカー日本女子代表コーチによる講演会を実施。「失敗することがダメなんじゃない。失敗してよいから、自分の力を信じてチャレンジすることが大切なんだ。」と力強いエールを生徒達に送っていただいた。

〈生徒の感想より〉

世界の舞台で戦うために必要なのは技術だけでなく、強いメンタルやチームワークであるという言葉が印象的でした。自分も部活動や勉強に対して同じように真剣に取り組みたいと思いました。今日の講演をこれからの努力の糧にしていきたいです。

○教員人権研修・交流会

教員研修用のリーフレット「人権の観点から子どもへの関わりを振り返る」を利用し、日頃の教育活動を振り返るとともに、教職員間のつながりも大切にできるよう、お互いの取組について意見交流を行った。



グループ協議



サッカー日本女子代表コーチによる講演

○保護者対象道徳講演会

日本スクールソーシャルワーク協会会長に「学校・家庭・地域 みんなで子育て」として地域や保護者のつながりの大切さをお話いただいた。

最近父親の参加も増え、身を乗り出すようにしてメモをとりながら熱心に聴いてくださった。

また、子ども達の「今、在る」を認めるということは、我々教員にとっても大切なことだと感じた。



スクールソーシャルワーカーによる講演

取組 2 授業研究の実践

高等学校には教科「道徳」はないが、各教科において道徳的な内容を扱うことや配慮をして授業を行うことは重要である。そこで今年度は、各教科で道徳的価値に関わる視点を取り入れた授業を実施し、公開した。生徒は、自分の考えを安心して述べる環境が整っているため、自由に、のびのびと発言していた。



公開授業風景 理科（生物）

取組3 他者とのよりよい関係づくりの実践

○道徳探究 (第1学年)

クラスづくり・仲間づくりを目的として、ジェンガトークを1年生各クラスで実施した。この取組を通して生徒たちは互いに優しい気持ちをもつことができ、道徳的判断力や真理を大切にしようとする態度の育成につながった。

〈生徒の振り返りから〉

自分と違う意見を聞いて考えが広がった。人間は個人が違う感性をもっているからこそ成り立っている人間関係があることを肌で感じる事ができた。そして、次の人のことを考えて、崩れないようにする、ということも思いやりの一つだと思った。この気持ちをもってこれからの学校生活を送っていきたいと感じた。



ジェンガトーク

取組4 地域交流活動の実施

○地元産業 かんぴょうの収穫・調理体験(第3学年 家庭科)

地元かんぴょう農家さんの畑でユウガオの収穫、かんぴょう干し、調理を体験した。人生経験の長い農家さんのお話を伺うのも、充実した時間となった。

〈生徒の感想より〉

初めてユウガオを見たとき、あまりの大きさに驚いた。大きな実ができるのは土がよいからおっしゃっていたので、農家さんって凄いと思った。昔からあるものを今も続けている人に感謝をして、いつか自分もなにかを受け継げる人になりたい。



ユウガオの収穫



かんぴょう干し

○地元小学生との交流 (第3学年 体育コース)

体育コースの生徒たちが、地元の小学校を訪ね、体育の授業補助を行った。小学生からは、「フラフープを使った運動が楽しかったから、また教えに来てください」といったお礼の手紙をいただいた。

生徒たちは、小学生が楽しそうに活動したり、できなかったことができるようになり喜んだりする姿を見て、人の役に立てることの喜びを感じていた。

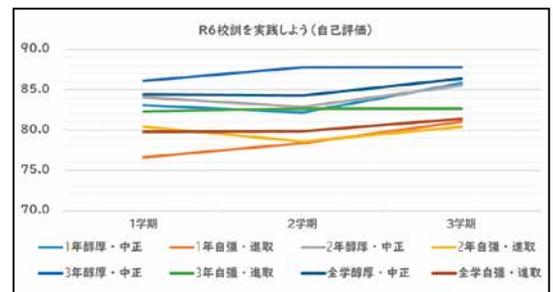


小学校で体育の授業補助

取組5 校訓の実践 未来をよりよく生きるために

本校の校訓「醇厚(じゅんこう)・中正(ちゅうせい) 自彊(じきょう)・進取(しんしゅ)」を実践することを目標に掲げ、学期ごとに評価を実施。令和6年度は、年度当初より評価が高かったことから、取組初年度と比較すると、1年生を除き、伸び率は低かった。

一方、生徒による学校評価で肯定的な評価がみられたものに、「本校は安心して学べる学校である」89.6% (R5) →95% (R6)、「お互いを認め合い、心豊かな生徒の育成ができている」85.1% (R5) →92% (R6) 等があった。



令和6年度 アンケート結果

成果と課題

○3年間、学校として「勇気付け教育」に継続的に取り組み、教員が生徒のよさを認める機会を意識的につけてきたことで、現在はそれが日常になってきている。そして生徒間においても互いを認め、尊重しあえる関係づくりの一助となっている。周りの環境が整うことで、生徒が自分自身を認めることができるようになった。

●道徳に関する意識調査では、他人に対する寛容さや自己肯定感につながる項目は年々改善傾向がみられるが、学年が上がるにしたがって他者への信頼感は下降している。自分を信じる気持ちを育てるとともに他者を信頼する気持ちへと広げていく取組がさらに必要である。

チーム高島で取り組む「つながり響き合う道徳教育」

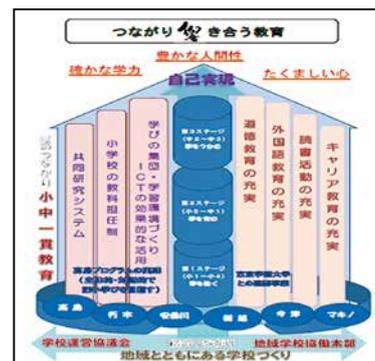
高島市教育委員会

https://www.city.takashima.lg.jp/kosodate_kyoiku/kyoikuiinkai/index.html



高島市では、「一人ひとりが高い志をもち、生涯にわたって学び、学んだことを人々のため、社会のために役立てようと行動するひとを育てる『高島の志の教育』を学校教育の基本理念としている。小中学校9年間の子どもの発達段階と学びの連続性を重視し、縦のつながりを「小中一貫教育」、横のつながりを「地域とともにある学校づくり」としてつなぐことで豊かな人間性、確かな学力、たくましい心を育てる『つながり響き合う教育』へと高める教育活動を推進している。（右図）

道徳教育の推進を図るため、大学教授からの指導助言や地域の方々の協力などを得て、各中学校区の特徴を生かした小中のつながりある授業づくりに取り組んでいる。



挑む(授業改善)

- ・自分事として考え続け、本音で語りたくなる道徳科の授業実践に向け、より深く考えられる発問や振り返りの工夫およびお互いの考えを広げ深めることのできる協働的な学びの工夫
- ・道徳教育推進教師を中心とした若手教員による道徳科の研究授業の実施(OJT実践の場)
- ・校内研修の充実
- ・1人1台端末を効果的に活用した授業実践



<1人1台端末の活用>

つながる(連携強化)

- ・発達段階を踏まえた学年を横断した授業のつながり
- ・教科等横断的な授業のつながり
- ・学校・地域連携カリキュラムの活用と保護者、地域への道徳科の授業公開
- ・地域教材の活用
- ・小中学校教員による共同研究
- ・小中一貫教育連携カリキュラム(道徳科)の活用



<共同授業研究>

響き合う(深め、広める)

- ・講師を招聘した夏季道徳教育研修講座、道徳教育研修会等の開催
- ・「研究所通信」による研究授業や研修内容の発信
- ・道徳教育推進協議会の開催
- ・研修成果を市内全体へ共有する取組
- ・市内および中学校区教職員全員研修会の開催



<中学校区全員研修会>

自分でつかむ自分の未来

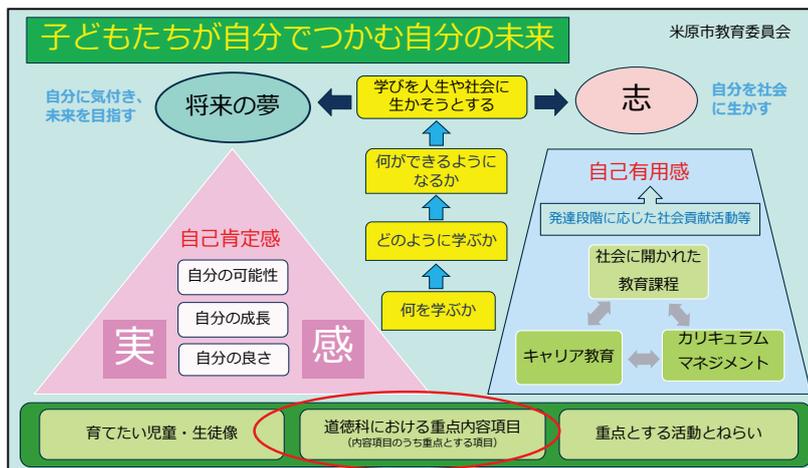
～道徳教育の視点を明確にした自己肯定感・自己有用感を高め合う教育の推進～

米原市教育委員会 <<https://www.city.maibara.lg.jp/soshiki/kyoiku/index.html>>



米原市では、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う「道徳教育の充実」と、郷土の自然や文化に触れる体験活動を通して、子どもたちが地域の一員として郷土の発展に寄与しようとする「シビックプライドの醸成」をすべての教育活動のベースに置き、子どもの自己肯定感と自己有用感を高める教育を推進している。

米原市 ビジュアル構想図を基に、各校の目標や特色ある活動に結びつけ、児童が主体的に学び、挑戦し、達成感を味わえる場面を創出している。



米原市 ビジュアル構想図

重点内容項目を教育活動のそばに

道徳科で培った心情を自分事として教育活動に生かす。

達成感の共有 仲間への信頼を育む活動の充実

学習したことが他者との関わりの中で、生かしているという実感とともに、達成感の共有や仲間への信頼を高めていく。

地域との連携 地域の人や資源を生かした学びの推進

教育フォーラム
ふるさと学習

家庭と学校と地域が連携！思いやりを育てる道徳教育

滋賀県PTA連絡協議会 <<https://www.shiga-pta.jp/>>



滋賀県PTA連絡協議会は、各校園のPTAと市町PTA連絡協議会との交流を大切にしています。子どもたちの将来を考えた活動を家庭と学校と地域が連携しながら思いやりの心を育てる道徳教育の振興のために、積極的に情報交換を行うことを推進しています。子どもたちの豊かな心の成長を促すために、心が温くなる経験が必要だと思っています。

東近江市立八日市北小学校の心がほっこりする出来事を紹介します。

現在の6年生はコロナ禍で入学を迎えた学年であり、入学式に全校の子どもたちが参加し、6年生にサポートしてもらったという経験はしていません。しかし、入学式当日、1年生が緊張したり不安そうにしたりする姿を見て「1年生が安心できるサポートをしたい」と考えました。そこで、入学式会場に入場するまでの時間や入場中も、1年生が楽しい気持ちになれるように手を繋ぎ、1年生の席まで寄り添いながら、積極的に話しかけました。6年生の思いやりが1年生を笑顔にしました。心が温まる素敵な入学式となりました。自ら考え、思いやりをもって行動する姿は、社会の中で誠実に生きていく力に繋がると思いました。思いやりを育むことが教育における道徳教育だと実感しました。今後も家庭と学校と地域で連携し、子どもたちの健やかな成長を支える環境をつくっていきます。



入学式の様子

絵本の世界をみんなで楽しもう ～1歳児から90代の高齢者まで～

合同会社 LOCO <<https://locoenjoythemommylife.com/>>



絵本の世界を楽しもう！

就園前の幼児、子育てサークル、高齢者サロンのメンバーが集まり、絵本『おべんとうバス』を一緒に楽しみました。まず、高齢者サロンの皆さんが、日頃参加している滑舌教室の成果を生かして子どもたちと子育てサークルの皆さんに絵本の読み聞かせをしました。その後、高齢者サロンの皆さんが、絵本に登場するおかずを料理します。子どもたちは絵本の読み聞かせやお弁当づくりの見学を楽しみました。高齢者サロンの皆さんが作ったお弁当を持ち、手作りバスに乗って外にピクニックに出かけました♪地域のつながりが希薄になる中、近くに住む人同士が顔を合わせ、楽しい時間を共有することは、お互いに相手を思う温かな気持ちが育まれるように感じました。



絵本の読み聞かせ



おかずくださーい！



ピクニックと外あそび♪

子どもの第三の居場所 (inふじの里)

～体験から広がるつながり つながりが育てる子どもの力～

社会福祉法人光養会 <<https://www.kouyoukai-fujinosato.jp>>



高齢者施設の資源を活用した子どもたちの安心できる夜の居場所づくり（第三の居場所）や多様な体験の場を提供しています。施設職員や地域の大人（子どもと関わるボランティア）とのつながりを通して、子どもの成長・自立・社会性を支えています。

■フリースペースふじの里なごみの家
子どもの夜の居場所(H28. 4～)



「何かあったらここにおいでね」
光養会は、子どもたちがいつでも
安心して戻ってこられる居場所
と環境を大切にしています。

■小学校の地域探訪・施設見学、
車いす体験



■中学生職場体験(チャレンジウィーク)



■地域交流事業の中学生ボランティア



■中学生学習支援の場の提供



資料1 道徳教育における「キャリア・パスポート」の活用

「キャリア・パスポート」をアレンジして道徳のねらいに迫る！

活用例

「キャリア・パスポート」実践事例集より

①学年のはじめの目標設定時に、「自分が育てたい心」を記入できるように「キャリア・パスポート」をアレンジします。児童生徒が自己の生き方について、日頃から道徳科の学びと関連付けて考えることができるようになります。【図1】



*今の自分について考えてみましょう 【図1】

〈6年生の目標〉
学校のリーダーとして下学年のお手本になる！
〈理由〉
縦割り活動や登校班のリーダーになるので、下学年に優しく接し、憧れられる人になりたいから。
〈どんなことから始めたいですか？〉
登校班で同じ1年生に毎日声をかける。

*目標のために自分が育てたい心(色をぬろう)



②学校行事の目標設定時に「自分が育てたい心」を記入し、行事後は達成度について色や文章で表すようにします。児童生徒が学校行事を通じて自己の生き方について考えることができるようになります。【図2】

※詳しくは、滋賀県総合教育センターHPに公開されている「キャリア・パスポート」実践事例集を御覧ください。



*行事ごとに目標を立てふり返りをしよう 【図2】

| 行事名 | 自分の目標 | そのために育てたい心 | 振り返り(自分の気づき) |
|-----|---------------------------------|-----------------------------|--|
| 運動会 | 全員リレーで1位になる！ | 友だちを大切に する心 | 授業だけでなく休み時間にも同じチームのみんなに声をかけて練習ができた。走りが苦手な友だちにも、その人が頑張れるように考えて声をかけられたと思う。 |
| 音楽会 | 苦手なリコーダーを頑張って練習する。みんなに合わせて演奏する！ | 努力してやりぬく心 友だちを大切に する心 | 上手くてなくてあきらめそうになったけれど、何回も練習できた。本番などと合わせて演奏できて嬉しかった。 |

参考：「道徳授業の個別最適な学びと協働的な学び」 浅見哲也 安井政樹 著

【研究主題】

「自ら課題をもち、考え続ける『特別の教科 道徳』の在り方」 ～自分事としてとらえるための自己を見つめ直す時間～

滋賀県小・中学校教育研究会道徳部会

1. 主題設定にあたって

本部会では、3年間を一区切りとした継続研究に取り組んでいる。令和5年度からの研究では、改めて基本に戻って道徳科の在り方を探り、自己の生き方を考えるという道徳科の本質に迫りたいと考えた。道徳科の時間だけの学びに終わらせるのではなく、日々の生活と結び付け、対話を通して多様な考えに出会い、自己の生き方につなげていくことが大切である。そのためにも、道徳科の授業を子どもたちの心に響くよりよいものにしていきたいと考え、研究主題を「自ら課題をもち、考え続ける『特別の教科 道徳』の在り方」とし、「特別の教科 道徳」の時間の在り方についてさらに研究を推進してきた。



1年次は「ねらいに迫る導入の工夫」について研究を進めた。様々な導入の在り方を探り、研究を進める中で、より本時のねらいを意識付ける導入になったり、「考えてみたい」という子どもの問いを生み出したりすることにつながったと感じている。導入段階で、自分自身の価値に対するとらえを自覚したところから、2年次は「多様な考えに気付く展開の工夫」を副題とし、展開前段にスポットを当てて研究を進めた。展開前段で、物事を多面的・多角的に考えていくための工夫に取り組んだ。また、1人1台端末の普及により、道徳科の学習の中でICT機器を活用した実践例も報告されている。多様な考えに気付かせたり話し合い活動をさらに活性化させたりする一手段として、さらに効果的な活用方法の工夫を探っていく必要があると考える。展開前段で気付いた、自分の考えや多様な考えなどを教材の中のお話で終わらせることなく、自分事として自分の中に落とし込むことが必要である。そのため、3年次は「自分事としてとらえるための自己を見つめ直す時間の工夫」を副題として、教材を通して高められた道徳的価値観に照らし、自己の生き方を見つめる場面として、展開後段の活用を進めてきた。

2. 研究の内容

○3年次（令和7年度）：自分事としてとらえるための自己を見つめ直す時間の工夫

展開後段の、教材から離れ自己と向き合う場面で、どのように向き合わせるかが重要である。自分のした行為を語り合うだけでなく、行為の裏側にある様々な思いを語り合う場として時間を確保したい。また、自分だけでなく友だちの考えを聴くことで、道徳的価値についての理解を深め、できた自分、できなかった自分、今までの自分、これからの自分について深く見つめ直し、自分事として振り返る豊かな時間にしたい。そして、学校の全教育活動を通じて行う道徳教育の充実のため、日常生活や豊かな体験活動とも関連付け、意識付けることを大事にしながら、道徳教育の要としての道徳科の指導の在り方を探っていくこととし研究を進めた。

○滋賀県小・中学校道徳教育研究大会

3年間の研究のまとめとして、11月11日（火）に、湖南市立下田小学校、湖南市立日枝中学校を会場に研究大会を行った。

公開授業、本部会から研究報告、県教育委員会指導主事からの指導講評そして、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 堀田竜次先生の講演と大変充実した内容で学びの多い大会となった。



***指導過程の基本型（例）**

教材名 「くりのみ」（小学校第2学年） 内容項目 B（7）親切、思いやり

ねらい うさぎの優しさに触れ、涙を流すきつねの思いに寄り添うことを通して、相手のことを考え温かい心で互いに助け合っていこうとする心情を育てる。

| | 学習活動・主な発問 | 予想される児童の思い | 教師の支援と評価（◇） |
|----|---|---|---|
| 導入 | 1. 親切とはどんなことでしょうか。 ねらいとする道徳的価値への方向付け、主題に対して興味や関心がもてるようにする。 | ・優しくすること。 ・難しいときもある。 児童の実態〔発達段階等〕を踏まえて予想する。 | ・親切について、今のとらえを見つめることで、本時のめあてへとつなげる。 学習に向かう雰囲気づくりを大切にする。 |
| 展開 | 〔前段〕 2. 教材を読んで話し合う。 ○食べ物を探しに森に入っていくきつねたちはどんな思いなのでしょう。 ○見つけたどんぐりを落ち葉で隠しながら、きつねはどんなことを考えているでしょう。 日常の実態把握をもとに児童の思いを十分に予想する。 ◎くりのみを見つめながら涙がこぼれたきつねは、どんなことを考えているでしょう。 中心発問では、ねらいとする道徳的価値に迫り、深く考えることができる場面を設定し、主人公の思いを考える。 〔後段〕 3. 自分の生き方を振り返る。 ○うさぎのように相手に温かい心で親切にしたときのことを思い出してみましよう。 | ・どうしても見つけたい。 ・見つからなかったらどうしよう。心配だな。 ・もうこれで食べ物には困らないぞ。 ・おなかが減った時のためにとっておこう。 ・誰かに見つかって取られたらまた探さないといけないから大変だ。 ・ぼくは自分のことしか考えてなかった。 ・うさぎさんも食べ物がないと困るはずなのに。 ・うさぎさんは優しいな。 ・うさぎさんみたいに相手のことを考えて行動できるようになりたい。 教材を通して高められた道徳的価値観に照らして、自己の生き方を見つめる。 | ・状況をイメージしやすくするために、北風のBGMや晩秋の山の写真を提示する。 発達段階に応じて、一読で主人公の立場や状況が理解できるよう教材提示を工夫する。 ・きつねの、食べ物を見つけたうれしい気持ちに寄り添えるように、動作化したり、場面絵を提示したりする。 ・相手のことを考えて行動するうさぎの思いにふれ、思わず涙を流すきつねの思いに寄り添えるように、役割演技を取り入れる。 主人公の気持ちに深く共感できるように、役割演技や書く活動を取り入れることは効果的である。 ◇相手のことを考え、身近な人たちに親切にしていきたいという思いを自分との関わりで考えていたか。（発言・ワークシート） 行為のみならず気持ちも出せるようにする。 |
| 終末 | 4. 教師の説話を聞く。 実践に向けて意欲を高めたり、余韻にひたたりできるようにゲストティーチャーの話を聞いたり、新聞の切り抜きや補助資料などを利用したりする。 | | ・余韻を残してしめくくる。 よりよく生きようとする意欲を高めるように工夫するなどして、ねらいとする道徳的価値が心に深く留められるようにする。 |

【教師の支援の書き方】

「○○の状態を理解させる。」という使役の言葉でなく、「○○の状況を理解できるように場面絵を提示する。」等、具体的に支援の仕方を明示する。

【評価について】

道徳性の評価の基盤には、教師と児童生徒との人格的な触れ合いによる共感的な理解が存在することが重要である。その上で、児童生徒の成長を見守り、努力を認めたり、励ましたりすることによって、児童生徒が自らの成長を実感し、さらには、意欲的に取り組もうとするきっかけとなる評価をめざすことが求められる。なお、道徳性は、極めて多様な児童生徒の人格全体に関わるものであることから、個人内の成長の過程を重視していくことが大切である。

道徳教育の充実に向けた推進協議会での委員さんの発言より

道徳科の授業中の発言内容や様子からいつもとの違いに気づき、授業後に声をかけて関わるができる。子どもの発言から心の状態を把握できるのが道徳科の授業のよいところである。教師の関わりを見て、子ども同士でも、気になる友だちに声をかけ合う風土をつくっていききたい。

子どもは、保護者から認められることが重要である。保護者は、目に見えることだけでなく心の育ちを褒めることが必要。また、様々な大人と関わることで多様な価値観を学ぶことができると感じた。

自分の考えと違う意見に対して、一旦聞いて、考える機会をもつことが重要である。誰かに語りかけてもらい、自分の考えを広げていくことが大切ではないか。



道徳科の授業では、反省ではなく内省が大切である。自分との対話をすることで未来の自分について考えられるようになる。

保護者と一緒に道徳教育を考えていくためには、授業の内容を学級通信に載せると効果がある。国語の音読の宿題を道徳の教材に変えてみるのはどうか。音読を聞いていた保護者と子どもの間に会話が生まれるのではないかと考える。

道徳科の授業で大事にしていることの1つは、教材を読んだ後の余韻である。すぐに発問してしまいがちだが、子どもが考える時間をしっかりと確保することを意識している。他の授業においても「間」は大切であると感じている。

| | 氏名 | 所属等 |
|-----|--------|--------------------------------------|
| 会長 | 押谷 由夫 | 昭和女子大学 名誉教授 |
| 副会長 | 真鍋 健 | 滋賀県立水口高等学校 校長 |
| 委員 | 澤 和記 | 社会福祉法人 光養会 理事長 |
| 委員 | 宮本 麻里 | 合同会社 L O C O 代表 |
| 委員 | 中井 昇 | 滋賀県 P T A 連絡協議会 理事 |
| 委員 | 竹内 真里 | 日野町立日野幼稚園 園長 滋賀県国公立幼稚園・こども園長会 副会長 |
| 委員 | 古川 克二 | 高島市教育委員会学校教育課 主監 |
| 委員 | 山口 美絵子 | 米原市教育委員会学校教育課 指導主事 |
| 委員 | 川崎 由美子 | 米原市立息長小学校 校長 |
| 委員 | 土永 晶 | 高島市立今津中学校 校長 |
| 委員 | 山本 照代 | 竜王町立竜王小学校 校長 滋賀県小学校教育研究会道徳部会会長 |

資料2 道徳科学習指導案の様式(参考例)



道徳教育
アーカイブ

第○学年 道徳科学習指導案

日時： 年 月 日○校時
学級：○年○組教室○名
授業者：職・氏名

- 1 主題名「○○○○」＜内容項目＞
※道徳科の年間指導計画における主題名を記載する。道徳科の主題は、指導を行うに当たって、何をねらいとし、どのように教材を活用するかを構想する指導のまとまりを示すものであり、「ねらい」とそれを達成するために活用する「教材」によって構成される。
- 2 教材名「○○○○」（出典： ）
- 3 主題設定の理由
 - (1) ねらいとする道徳的価値について（価値観）
ねらいや指導内容についての教師のとらえ方
 - (2) 道徳的価値に関わる児童生徒の実態について（児童観・生徒観）
 - (1) に関する児童生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願い
 - (3) 教材の活用について（教材観）
使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法
※記述に当たっては、児童生徒の肯定的な面やそれをさらに伸ばしていこうとする観点からの積極的なとらえを心掛けるようにする。また、抽象的なとらえ方をするのではなく、児童生徒の学習場面を予想したり、発達の段階や指導の流れを踏まえたりしながら、より具体的で積極的な教材の生かし方を記述するようにする。
- 4 本時のねらい
※本時で特にどのような道徳性（心情・判断力・実践意欲・態度）を育てたいのかを記述する。
- 5 本時の学習指導過程
※一般的には、導入、展開、終末の各段階に区分し、児童生徒の学習活動、主な発問と予想される児童生徒の発言、指導上の留意点、指導の方法、評価などを指導の流れに即して記述することが多い。

| 学習活動・主な発問 | 予想される児童生徒の思い | 教師の支援と評価(◇) |
|--|--|---|
| 学習指導過程は、 1 (導入) 2 (展開前段) 3 (展開後段) 4 (終末)の4つ となる場合が多い。 | ・ 予想される発言を分類して書く。 ・ 記述された発言から本時のねらいが達成されるか検討する。 | ・ 「～としたい」という願いだけでなく、具体的な手立てを明記する。 ◇評価については、その内容と方法を書く。 (例：ワークシートへの記述) |

- 6 事前・事後の指導の工夫（他教科等との関連）
- 7 評価 ※展開の中に項目を設定して記載することもできる。
- 8 板書計画 ※板書の機能を生かすために重要なことは、思考の流れや順序を示すような順接的な板書だけでなく、教師が明確な意図をもって対比的、構造的に示したり、中心部分を浮き立たせたりするなどの工夫をすることである。
- 9 その他 ※座席表、教材分析、補助資料などを必要に応じて付記する。

ねらいに即して問題解決的な学習や道徳的行動に関する体験的な学習など、多様な方法を取り入れ、指導を工夫することが大切です。ねらいにせまるために、ICTを効果的に活用することも考えられます。また、学びを深める手立てとして、切り返し発問や意図的指名などを取り入れることも重要です。



資料3 日々の授業構想お役立ちシート(参考例)

毎回の授業で指導案を作成することは難しいですが、ねらいをもって授業ができるよう、計画をすることが大切です。日々の授業構想のポイントをまとめています。学校として残し、共有することもできます。参考にしてください。



白紙のシート
はこちらから



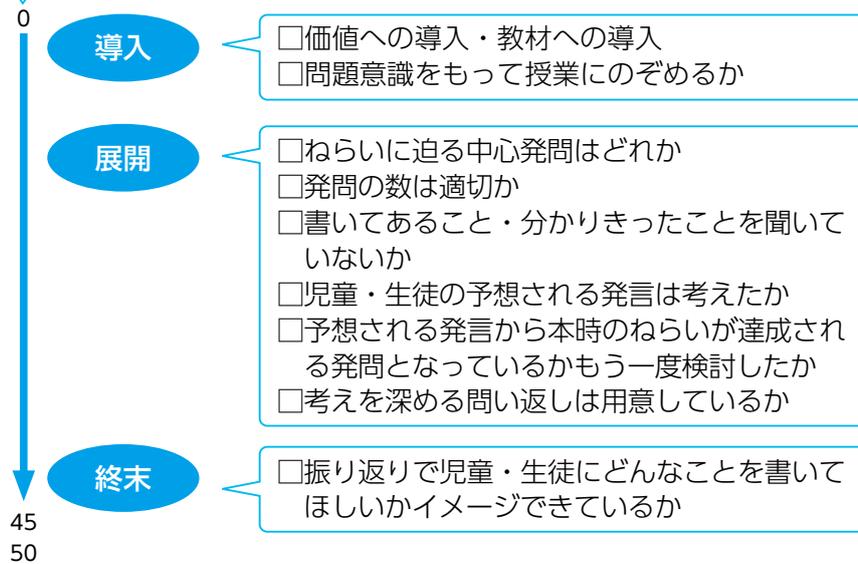
| | | | |
|-------|--|---------|--|
| 【主題名】 | | 【内容項目】 | |
| 【教材名】 | | A | |
| | | B - () | |
| | | C | |
| | | D | |

【今回育てたい道德性の様相】 判断力 心情 実践意欲 態度

【ねらい】 (本時に考えさせたいことは何か。道德科の内容項目を基に、ねらいとする道德的価値や道德性の様相を端的に表したものを記述)

時間配分

※発問や指導で大切にしたいことを記入する。



大切!

1時間を通して…

道德的諸価値についての理解を基に

- ① 自己を見つめる学習
- ② 物事を多面的・多角的に考える学習
- ③ 自己の生き方についての考えを深める学習

が設定されているか

- ★ 話し合い活動の設定は？
- ★ ICTの効果的な活用は？

【板書計画】

- ・ 場面絵や心情曲線、矢印、色等を工夫し、構造的な板書になっているか

【道德性の様相とは…】

道德的判断力：それぞれの場面において善悪を判断する能力

道德的心情：道德的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情

道德の実践意欲：道德的判断力や道德的心情を基盤とし道德的価値を実現しようとする意志の働き

道德的態度：道德的判断力や道德的心情に裏付けられた具体的な道德的行為への身構え



本冊子並びに過去の振興だより
(平成27年度～令和元・3～6年度)



滋賀県教育委員会事務局
幼小中教育課 ホームページ

令和7年度道徳教育振興だより
滋賀の子どもたちにこころの元気を
道徳科を要とした道徳教育の充実
令和8年3月発行

発行：滋賀県教育委員会
〒520-8577
大津市京町四丁目1-1